

第54期

代表取締役 清水 克洋

の振り返り (2023年9月期

主力3部門である工作機械・軸受・半導体 について、それぞれの1年間を振り返りま 面で苦戦が続いた1年間でした。当社の 23年9月期は22年9月期と比べ、受注

とができました。一方で、第4四半期(20 推移し、先期を上回る売上を計上するこ 若干ペースダウンしました。 23年7月~9月)に入ってから、受注は この背景には、第1~3四半期におい 工作機械は、第54期の売上の核として

ても今後さらに影響が出始めることが予 るよう、工作機械の受注も右肩下がりの 日本工作機械工業会からも発表されてい 発注を頂戴していたことが挙げられます。 て安定した納品をさせて頂くための先行 レンドに入っており、当社の受注におい

円を割り込むような状況となってしまい 注が減少し始め、7月には1000千万 況にありましたが、5月頃から大きく受 ました。この点は、不二越様の軸受生産の 軸受は、上期に関しては先期同様の状

> 感じています。 も一部にはあるのではないかと考えられ ます。今後を含めた対策・対応が必要だと 一部が海外に移管されたことによる影響

今期の活動を振り返る

せん。お客様からも計画の後ろ倒しのお 22年ペースまでの回復には至っていま 復を見込んでおりましたが、半導体市況 春以降になるのではと考えております。 話もあり、受注が回復傾向に入るのは来 における予測のズレがあり、未だに20 ンスでは2023年夏頃からの生産の回 い状況が続いています。当初のKOKUS 半導体は、第5期のスタートから厳し ELECTRIC様からのアナウ

良かった点と改善が必要な点があります。 きましたが、社内の状況に目を向けると ここまで外部環境の状況を振り返って

題として対策の検討・実行を進めていき 整備しきれず、お客様に対するきめ細か げられます。人員不足もあり、社内体制が たいと思います。 いると判断しています。この点は来期の課 なアプローチ、フォローアップが不足して 改善点については、まず、営業体制が挙

を進めていきたいと思います。 た生産ができるように管理手法の平準化 ありました。今後1年間を通して安定し 品の在庫管理を含めた管理手法に問題が キャストを踏まえ、生産段取りを柔軟に対 応することを目指しましたが、製品・仕掛 また、生産統括部ではお客様のフォー

も大きな問題を発生させることなく良い ロナ禍中に解決を実現した以降、今現在 の経営課題だった納期遅れについても、コ ディーかつ効果的に対策が取れるように になった問題点へのアプローチがスピー 程進捗の管理、またその管理の中で明確 なってきたことです。コロナ禍以前の当社 良かった点としては、製造部における工

> 在・潜在している問題点の解決に着手し た点について、継続し続けるとともに顕 状態を維持できています。これらの良かっ ていきたいと思います。

第55期の展望

境下でスタートを切ることになります。 など、第55期は更に先行きが見えない環 先述の通り主要3部門の状況が厳し

を掲げ、上期の状況を踏まえて下期の目 55期に関しては、まずは上期の目標のみ 目標を掲げて取り組んでいましたが、第 化に柔軟に対応することを目指します。 標と対策を立案することで外部環境の変 そのため、本来であれば期初には通期

考えています。 あり、当社の受注状況にも影響があると なるとも言えます。一方で軸受については、 予測できるため、その間は耐える時期に 2024年4月以降までズレこむことも 自動車業界が今秋以降に盛り返す予測も いては、先述の通り回復基調に入るのが 道のりであると感じています。半導体につ 改めて売上・受注予測を立てると険しい 現在、上期の目標を検討していますが、

の変化および、お客様のニーズをキャッチ ように改善を積み重ねていきたいと思い く、高い生産効率でものづくりができる た製品を納期遅れなく確実に納入するべ ながら受注確保に努めることと、受注し アップし、当社ができる最適な提案を行い いずれにしても、営業において外部環境



各課の「年を振り返る

2課、

製造1課 三浦課長 けての抱負をお伺いしました。

第54期の振り返り、

②来期に向

第 54

期決算を迎えて各課長に①

第54期の振り返り

です。 成となり、 数値でしたが、どちらも目標達 件数は7件の削減が求められる 実績から約6%の向上、不適合 定しました。消化効率は昨年の 不適合件数25件を目標として設 製造1課では消化工数95 今期を終える見込み %

を入れることで目標を達成でき とからマニュアル化や教育に力 不足が要因となることが多いこ 呼びかけ、 時にケアレスミスの注意喚起の きました。 運用できたことで目標を達成で 合いもあり、 消化工数率では受注量の兼ね 苦手な加工や技術力 不適合件数では朝礼 NC機を効率的に

来期に向けての抱負

第54期はベトナムBKのメン

ています。 た。また、サポートだけでなく 納期遅延も大幅に改善されまし 入ってもらったおかげもあり、 バーにとても助けられました。 の課員も見習ってほしいと思っ チャレンジする姿勢は、ぜひ他 難易度の高い加工にも躊躇なく 技術の習得にも非常に積極的で 汎用旋盤に3名サポートとして

3

き続き取り組み、課全体のレベ いる基本動作の徹底に今後も引 となく製造部全体で取り組んで ルアップを目指します。 今期の目標達成に甘んじるこ

います。 方法を教えていきたいと考えて も縦型マシニングセンタの操作 えてベトナムBKのメンバーに 第55期は先述の取り組みに加

り組んでいきます。 ていましたが購入申請の基準を 組みを作ることで経費削減に 設定し、ムダなく使用できる仕 関して従来は各々の判断に任せ その他、 購入品の使用方法に 取

製造2課 沢村課長



ます。 産状況であっても、 働時間を増やすかだと考えてい 立てづらい状況が続いています いかに多くの機械を動かし、 依然として受注量の見通しが 製造部として出来ることは そのために余裕のある生 なるべくN 稼

第54期の振り返り

は消化工数率では達成した月と 目標を掲げました。結果として という結果になりました。 適合件数は32件となり目標未達 未達となった月が半々程度、 製造2課 不適合件数30 では、 消化工数 件という 不

る場合があり、消化工数率では ろ2台、日によっては1台とな 未達となってしまいました。 の場合は3台が前提となるとこ の影響を受け、従来は多台持ち 消化工数に関しては受注量減

い職場を目指して改善を進めて 全員で作業しやすい見栄えの良 中堅・ベテラン社員も含めて、 とに感謝しています。日時を決 て2Sを実践してくれているこ います。特に若手社員が率先しキレイな職場になったと感じて いきたいと思っています。 めて行う清掃は、今後も続け、 にも取り組み、確実に以前より 今期は見栄えの良い職場作り

来期に向けての抱負

るケアレスミスばかりであり、 確認モレ等、 ついていないというような、 間でした。 来期には改善に取り組む必要性 ではなく、ちょっとした図面の テップアップにつながる不適合 難易度が高く加工技術が追 気の緩みから生じ

ス

るように心掛けていきます。 C機を停めずに効率良く製造す

り返ることで、より良い成果を め、今期行った基本動作の見直 できると感じています。そのた は来期は不適合件数をより削減 出したいと考えています。 しを来期も行います。基本を振 カミスが多く、取り組み次第で 意をしていれば防げたはずのポ 不適合の要因はしっかりと注

製造3課 白川課長



第54期の振り返り

は成果が出ているものの、 合件数が減らずに苦戦した1 製造3課は納期対応に関して 不適

各課の「年を振り返る 生產管理課~ 質管理課、

を感じています。

も会社に大きな成果をもたらすと くれました。彼らが立派な戦力と で、納期対応にも大きく貢献して は加工技術力が向上していること ますが、ベトナムBKのメンバー とすることを目指します。 して成長していることから、 に加え、仕事量増加時にも協力的 れば起こらないようなミスをゼロ た習慣的に図面の確認を行ってい 3課としては反省点が多く残り 特に一般交差から外れるといっ 今後

来期に向けての抱負

考えています。 ば3課全体の生産性が向上すると 不適合件数の削減が実現できれ

べきことを確認しながらヌケやモ 業の中で現在進行中の工程で行う 各工程の基本動作を書き出しただ 不足を防ぐために54期に取り組ん けで終わるのではなく、日々の作 だ基本動作を徹底していきます。 レのない製造現場を目指していき 不適合の一番の要因である確認



品質管理課 松木課長

第54期の振り返り

待しています。

を達成することが出来ました。 期は不適合件数6件と目標の数値 標を掲げることとなりました。 今期から品質管理課としての目 今

んでいく事項です。 の有無に関わらず継続的に取り組 は従来から取り組んでおり、 不適合品の発生を抑制すること 目標

や、不適合品発生時に行う、 でいきます。 のための原因追及等、これまで行 ってきたことを引き続き取り組ん しては日々の朝礼で行う意識付け は発生しています。品質管理課と 目標は達成出来ましたが不適合 是 正

来期に向けての抱負

じる不適合です。日々、呼びかけ 最も多いのは人が要因となって生 機械・材料・方法がありますが 不適合品の発生要因としては人

> いきます。 き不適合件数の抑制に取り組んで を行っていくことで来期も引き続

で再発防止に努めます。 原因を追及し、 また、その他の要因に関しても 改善していくこと

生産管理課 前田課長



第54期の振り返り

成に向けて取り組みました。 う3つのテーマを掲げて、 課が起因となる不具合の低減とい 入先不適合件数の低減、生産管理 第54期は納期遵守率の向上、 目標達

来ませんでした。 ましたが、前期を上回ることは出 し8月時点で83%と目標は達成 納期遵守率に関しては、 53期86%の所、80%を目標と 52 期 58

合は前期実績32件の所、 達成することが出来ています。 目標に対して平均7件/月となり 減少もあり、平均14件/月という 仕入先不適合件数は、 生産管理課が起因となった不具 目標件数 案件数

> す。 スし直す等で材料の誤発注を防止 らい図面は出図時に図面をトレー に図面の見誤りがあり、分かりづ 12 していきたいと考えています。 目標未達となった要因の一つ 今期実績19件という状況で

来期に向けての抱負

今回学んだ短納期対応のノウハウ ていきます。 作機械需要が回復した際に発揮し を来期にしっかりと活かして、エ の調整に終始していた印象です。 今期は短納期対応が多く、 エ

き取り組みつつ、製番ごとの利益 んでいきたいと考えています。 率の監視等、原価管理にも取り また今期の活動テーマに引き続



ち、 しく、朝の静かな時間を楽しんでいます。活用してお手頃価格で入手しているのでお財: F系が多いです。 も埋まってきました。 ていきます。 たことから読書を始めました。 いかと考えた所、 いました。 から渋滞を避けるために始 5日間 今では読み終えた本も-50冊近くに の始 はす。ジャンルにこだわりはありま!程度でー冊読み終えるので月に5! 業前の読 んた所、活字を読むことから長らく離れてい始業までの時間つぶしに何か良いものはな 冊数は多いのですが、 が 日 Q 業の それから3年近 間よりも ティ 早く出

ブックオフを

!も優

せ冊

h

が、S

ほど増え



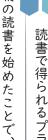
技術課

,朝読書(

始業前のルーティー

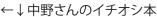
次号のバトン

中 -野さん



読書で得られるプラス効果と尽きない悩





いなり、

か、本棚組みが経

社

して



次号ではAPSの奥村さん を推薦します。

入社3年目となり、日々頑張 っている姿が印象的です。 仕事にもこだわりのポイン トが出てきたのではないで しょうか。

ぜひ伺いたいです。



す。

以前に本棚をDIYしようとしたものの断念した下の悩みは、日々増えていく新しい本の置き場で

目

下の悩みは、

ことがあり、

今の本棚が埋まってしまっ

たら、

どうし 念した

にも励んでいきたいと思います。

:の貴重なリラックスタイムを大切に、

日

々の

決しそうにありません。

の本が一番良いので収納場所という悩みはしばらく解 ようか悩みどころです。やはり電子書籍ではなく、 知識が増えるという効果もありました。を読まなければ知ることが出来なかったこともあ

が増えるという効果もありまし

プラスに働いていると思っています。 効果や目の前のことに集中する効果が

た、これまで知らなかった単語や言い

・回し等、

ま

くって一心に活字を追う時間があることでリラックス

あり、

仕事にも

ばスマホをいじっていましたが、

ように感じています。

それまでは時間をつぶすと言え

· 枚 |

枚ページをめ

!事中の集中力も増した

間もなく埋まってしまう本棚





営業課 郷田 健太さん



入社日:9月11日



一言PR

前職では中古車販売の営業をしていました。店長や 課長も経験しました。これまでのスキルを活かせるよ う頑張ります。

New Face 紹介

入社を決めた理由・今後の意気込み

これまで中古車販売の営業職として働いてきまし たが、30歳を迎えて新たな挑戦として転職を決意しま した。その際に、今までは出来上がった商品を販売し てきたので今度は一から製品を作り上げる製造業の 営業職に就きたいと考えました。また、家族も石金精 機という会社を知っていたことも入社を決めた理由 の一つです。

まだ入社して日が浅いため、まずは図面を覚えて知 識を身に付けることに励んでいます。同じ営業職です が前職では接客が主でした。石金精機では事務的作 業もあるため、日々覚えることがたくさんあります。 右も左も分からない状態ですが、早く皆さんの力にな れるように1日1日を大切に、知識を深めていきますの でよろしくお願い致します。